

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	知財見聞録, ベトナム北西部のサパを訪問
Title(English)	
著者(和文)	田中義敏
Authors(English)	Yoshitoshi Tanaka
出典(和文)	発明, Vol. 115, No. 2, pp. 30-31
Citation(English)	THE INVENTION, Vol. 115, No. 2, pp. 30-31
発行日 / Pub. date	2018, 2



知財見聞録

ベトナム北西部のサパを訪問

東京工業大学 工学院 経営工学系・経営工学コース 教授 田中 義敏

ベトナム知的財産権庁の審査官、弁護士とのミーティングを終え、土日にサパまで足を延ばしてみた。ベトナムの役所には土曜日出勤の習慣が残っており、筆者の週末に付き合ってくれる人はいない。ベトナム人からも「一度は行ってみたい」といわれるサパなので、奮起して一人で未知の探検に挑戦してみた。

140年前に地図に現れた

サパはベトナム北西部、中国との国境に近い標高1600mの高地にある。低地に居住するベトナム人は、元々この地域を開拓も占領もしてこなかった。低地のベトナム人にとってはいわば未開の地であり、高地に住む少数民族がほそぼそと暮らしていたらしい。今から140年近く前の1880年代にフランス人が開拓し、初めてベトナムの地図に掲載されるようになった。

西洋人はよく海外の未開地域を訪れ、新たな居住地域をつくってきたようだ。自らの避暑地として造成したり、農業指導により豊かな地域づくりに貢献したりする例はこの地域だけにとどまらない。

この地域はサパという名前の町になり、人力で造成された整然として美しい段々畑や溪谷に刻まれた細い道の素朴さが多くの観光客を引き付けている。自然が残され、今でもモン族やザオ族などの少数民族が暮らしている。

実に長い道のり

週末に一人でサパ観光にいくといってもそう簡単なことではないので、朝寝坊の筆者にとってはつらかったが、朝早くからのツアーに参加した。

ツアーバスの集合場所まではホテルからタクシーに乗って出かけたが、バスに入ってびっくり。ほぼ平坦状に倒れたベッドのような座席で、しかも2階式になっている。カーブの際に座席から振り落とされるのではないかと何となく心配になり、急いで1階席を占領した。

ハノイからラオカイ省の省都ラオカイまでは、ひたすら北に向かって高速道路を走る（2014年3月にハノイ・ラオカイ間、約265kmの高速道路が開通している）。ラオカイまで5時間くらいかかっただろうか。そして、ハノイからの鉄道の終着点となっているラオカイ駅からサパまでは山岳地帯に入っていく。曲がりくねった森のなかの山道を大型バスに揺られること約1時間でサパの街に到着した。

ようやくサパに到着

バスの停留所には、赤、黒、花柄のカラフルな衣装を着た地元の人が土産物を持ってたむろしていた。着ている服の色によって、赤ザオ族や黒モン族、花モン族などと、民族の違いが分かるらしい。

サパの街中のイメージは、地方の村

というよりもフランス風の雰囲気を漂わせるしゃれた感じだった。とにかくバスの長旅だった故、まずはホテルに案内され、すぐに昼食を取った。

入村の仕組み

昼食後一息ついて早速少数民族の村へ案内された。ツアーガイドが村の入り口で店の人と会話をした後、村への訪問のお土産としてインスタントラーメンを購入するようにとの指示があり、かなり多く（40個程度だろうか）のインスタントラーメンが入った箱を購入。さまざまな場所を見学させてもらったり、旅行会社のツアーガイドは土産を持参して村に立ち入ることにしたようだ。要するに、訪問する村の家々に配って歩くわけである。

なお、サパにある少数民族の村に入るには、サパ市役所の許可が必要である



2段ベッドの長距離バス

り、入村料もかかる。今回はツアー料金に含まれていたためか、現地では入村料を徴収されなかった。

カットカット村

筆者の参加したツアーでは、黒モン族の住むカットカット村を訪問した。前述のとおり土産物のインスタントラーメンを買い、谷底に向かって一本道を下っていくと途中の踊り場で、しま模様に見える美しい棚田が姿を現す。道の両脇にはところどころに土産物店がある。どこからか子どもたちが集まってきてインスタントラーメンをねだってくる。

村の生活の一部を見学させていただくことができるということで、黒モン族のおばあちゃんに会ってきた。入り口にドアのない屋根と壁に囲まれた吹き抜けの空間に住んでいるようだ。お土

産に持参したインスタントラーメンをありがたそうに受け取る姿が印象的だった。

村のどの家々も大人は出稼ぎに出ているとのことで、子どもやお年寄りが目立つ。家の中も見学させてくれたが、照明が少なく、暗い部屋で暮らしているようだ。

自然のなかで暮らすこと

村の一本道を下り終えると豊かな水量の滝と川が流れている。この水が少数民族にとっての大切な資源になっているようだ。川には、大きな水車が設置されている。おそらく発電に使っているのだろう。

私たちのような近代化された環境で暮らしている者には分からないようないろいろな苦しみと楽しさが混在した生活を送っているのかもしれない。

急遽サバを出発

なんと、日曜日の未明から雷を伴った豪雨となってしまった。サバを午後4時に出発するバスに乗る予定だったが、翌日のベトナム科学技術アカデミーでの講演とテレビ取材に間に合わなくなると大変な迷惑をかけてしまうと思い、日曜日の午前10時のバスでサバをたった。

ハノイの友人と連絡を取ったうえで出発時刻変更の判断をしたものの、とにかく道路が閉鎖されるかもしれないほどの豪雨だったため、時刻を早めたといっても予断を許さない……。

サバからカオライまでの山道を無事にバスが通過し終え、ようやく胸をなでおろした。今でもあの時の^{あんど}安堵感は忘れられない。



美しい棚田



土産物店に所狭しと雑貨が並ぶ



村の谷底を流れる川



黒モン族の工作場の様子



おばあちゃんにインスタントラーメン